

と亭主とたがひに隙をうかゞひて、透あらば客とまりて、亭主もろ共に少々はなしなどして、爐にても火相をうかゞひて、なだれば茶よりさきに炭を置茶をたつべし、いまだ火相よくば、茶過てより炭をきすべし、此たびの炭を、名殘炭共立すみ共いふ、尤の異名也。

〔茶道便蒙抄^{亭一}後火を直す事

一菓子喰終る時分に炭斗を持出、土鍋取に立、其時菓子の器取て入、土鍋を持出前のごとく、圖略の所に置障子をさす、火を直す事前のごとし、扱炭を仕廻、道具炭斗へ入る事、いづれも前に同じ。

一此火直す時、爐中つかへたらば、下取の土鍋を持出灰を取たるがよし、當代は客より下御取あれと申也、一切不心得、下取事、客への不禮にて有間敷事也、不斷茶の湯仕懸候へば、時ならず灰つかゆる也、其節客よび合候へば、客有とも辭儀に不構、下を取て炭をかて叶間敷也、當代は客よび候時、爲其に灰を直し、茶の湯仕懸るなれば、中々下つかゆる事無之、然れども、客より下御取あれと申せば、客に任せ、つかへざる下を心得がほにて取事、おかしき事也、扱此時の炭は、前のよりかろく、様子見事に置たるがよし。

客退座

〔南方録〕客暇乞て歸る時、亭主露地口迄送り出て揖する事、

後の炭濟と立水の程を考へ、いとま乞して立べし、主も露地口まで相送、初終の禮相揖すべし、〔細川茶湯之書^下〕一うす茶取置て亭主出ばは、やしほ也、其時亭主へ暇乞して時宜をし、口より出る、これも中立のごとく、釜花入座敷などに、名ごりをおしむ心をとめて出べし、

一刀掛の刀脇指、其内の若きもの取て各へ遣もよし、めんくもとる也、

一歸ときも入時のごとく、先の人を先へ立て歸る、亭主送り出ば、中くゞりにて暇乞すべし、玄ひて出は、亭主次第たるべし、